

和歌山市学校教育指針

- 確かな学力の育成
- 道徳教育の充実
- 健やかな体の育成
- 特別支援教育の充実
- 不登校・いじめ問題の解消
- 子供の安全確保の徹底
- 地域とともにある学校づくりの推進

保護者・地域の願い

- 学力の定着・学習習慣の定着
- 自分のことを好きでいられる子供に
- 自分からあいさつできる子供に
- 地域の方と触れ合う機会を増やす

【学校の教育目標】

望ましい人間像をめざし、一人ひとりの子どもの主体性・創造性を養い、心身ともに健康で、豊かな人間性や社会性のある子どもの育成

【めざす児童像】

—たくましい子、やさしい子、考える子—

前年度の学校評価

- コロナ禍で活動が制限される中、工夫して取り組んでいた。
- 学校の取組について情報発信の方法についてさらに検討する。
- 地域や保護者との連携を深める。

児童の実態

- 友達の良いところを認められる。
- 挨拶をされたら返せるが、自分から進んであいさつする子は少ない。
- スマホやゲームの時間が長い。体を動かすことが少ない。

重点目標

開かれた学校

- ◎家庭・地域との連携充実
- ◎保幼小の接続、中学校区における学校間連携の推進
- 地域の資源活用の推進

たくましく健やかな体

- ◎体力向上の推進
- ◎基本的生活習慣の確立
- 危機回避能力の育成

大きく豊かな心

- ◎いじめの未然防止、早期発見
- ◎インクルーシブ教育の普及
- 道徳・人権教育の充実

確かな学力

- ◎基礎・基本の確かな定着
- ◎子供主体の授業の推進
- 家庭学習の定着
- 読書活動の推進

具体的な取組

- ◆各種便り、HP等を通して学校の情報を発信するとともに、授業や行事等を積極的に公開する。
- ◆学校の取組がより有効に伝わる方法について検討する。
- ◆共育やコミスク、地域先達を活用し、地域と学校とのつながりを作る。
- ◆中学校区での小小・小中の連携や、保幼小の連携を推進する。
- ◆図書ボランティア活動の活性化

- ◆「手洗い・うがい」「咳エチケット」などの知識を持ち、健康な生活について意識できるよう取り組む。
- ◆生活習慣の見直しを図る。
- ◆体力づくりを促進し、可能な範囲で体を動かす機会を設ける。
- ◆性教育を一層推進する。
- ◆避難訓練や交通安全教室を実施したり、アレルギー対応や心臓蘇生法について研修したりして安全意識を高め、危機回避能力を育成する。

- ◆道徳科においても、本校の研究テーマを意識した授業展開を行う。
- ◆QUやいじめアンケート等を年間に複数回実施し、いじめの未然防止・早期発見・対応に努める。
- ◆多様な個性を認め合える集団づくりを行う。
- ◆児童会活動、集会活動、学校行事、たてわり活動等でペア活動など子供同士が関わる機会を増やす。

- ◆学びのルールと、粘り強く考える学習習慣の定着を図る。
- ◆学年間でノート指導の共通理解を図り、スムーズに書くことに向かえるように取り組む。
- ◆保護者と協力し「家庭学習の手引き」が活用される手立てを講じる。
- ◆学校での読書時間を確保する。
- ◆関わり合いを大切にした授業づくりを行う。
- ◆一人一台端末を有効に使う。

指標

- ・学校の様子がよく伝わった【HP閲覧数1年間に10000回】
- ・地域学習を学年に応じて1回以上行う【教師100%】

- ・朝ごはんを食べた【児童95%】(生活調べ)
- ・積極的に運動を行うよう計画し、実践する【教師95%】

- ・「わたしは学校が楽しい」【児童95%】
- ・「命の大切さや社会の決まりについて教えてもらっている」【児童95%】 ※上記2点は評価アンケート
- ・QUの学級生活満足群【85%】

- ・県学習到達度調査等の無答率の改善【県平均】
- ・「学校での勉強がわかる」【評価アンケート児童85%】

◎：特に重点的に取り組むこと
【】：目標数値